

牧草と園藝

夕張部長沼町字幌内一〇六六
雪印種苗株式会社
中央研究農場



山野を牧草化して日本農業の 発展を期するにはどうすべきか

わが国の牧草の種類は主として農耕地内で輪作栽培に適用する優良種が活用されたので相当な進展を示したが、山野の自然草地改良に用いる追播用牧草についてはまだ至つて初歩の時代である。

元來牧草地を農耕地内に求めることはいろいろな關係であまり大きな進展を期待しがたく、とくに日本のごとき零細農業ではたとえ農耕地の二割くらいですすんでも国土面積の僅かに二―三〇程度で、裏作、後作などをあわせても総耕地面積が国土の一四〇ぐらゐでは大發展を期しがたい。しかるに山野の自然草地の改良を遂げられるならば総耕地以上の改良草地が産み出されるので、牧草種子の需要が莫大な量になることが予想される。

世界の草地改良で、食糧問題にまで貢獻するほどの改良を促進された事例では、アルゼンチン、パンパスのルーサン、オーストラリアのサブタレニアアングロババー、ニュージーランドのペレニアルライグラスなどであるが、このほかアメリカの北大平原やカナダではクレストッドホイトグラスが追播効果をあげた。

また荒廢した草地、飲山のボタ山、露天掘、道路の切通しなどの不毛地では、クズ、ヤハズソウ、メドハギ、バードフットトレホイル、スイートクロバールのごとき葎科牧草が初期草生の効果をあげている。このような世界草地改良の追播用草種を検討すると、耕地栽培草種と違つた特異点が見出される。

一 導入草は氣候風土に適應することが重要であるが、従來の成果では、原産地と違つた氣象条件でも、良く生育するばかりでなく、かえつて原産地よりもよい成績をあげているものが少くないこと。

二 相当な本科草の生えている自然草地の追播草は、相当高度な牧草の種類が追播に適するが、荒廢地や不毛地では、まず野草的な種類を追播しないと成功しないこと。

三 追播草種はいずれの場合でも葎科草を用いていること。

四 不毛地ではまず葎科草が三―五年生育しない限り、禾

牧草と園藝 十二月號

目次

- ◇表紙写真：無意根山頂より蝦夷富士羊蹄山を望む
- ◇山野を牧草化して日本農業の發展を期するにはどうすべきか……………田垣 住雄
- ◇アルサイククロバールの栽培……………安孫子 六郎…一
- ◇畑地灌漑と電気利用の私の経営…米沢 政雄…三
- ◇蔬菜品種改良のめあて……………中原 忠夫…五
- ◇ワイピングラググラスの栽培……………安孫子 六郎…七
- ◇上野幌育種場便り…ポシキンの収穫……………八
- ◇かぶ、ルタバガ、レープの区別……………九
- ◇ホーレン草の種子における発芽後の成長を抑制する物質について……………宮本 隆夫…九

本科牧草を追播しても無駄に終ることが多いこと。

五 このような場合には、遠隔した他国原産の葎科野草が好成績をあげていること。

以上のような關係がままでの自然草地改良に見受けられる主な要点である。

世界各地でこのような草地農業がすすんで草地生産力を

二倍から五倍ぐらゐまで向上している姿を見ると、日本の山野草地でも倍か倍以上に草産振興をはかるぐらゐは、さほど困難な事業でないと考えられる。

草産の重点を農耕地から山野の草地に転換すると、狭い日本の農地が山野に展開されて、穀実の稔らない地帯で牧草地の増成が促進され、始めて世界の畜産また酪農地帯と同じような環境になつて、養畜力が飛躍し、広大な山野を背景にして、日本農業が、真に牧畜混同の有畜農業に進み、永久的な増産施策に落付くであろうが、農地がいつまでも、穀実が稔る田畑地帯にのみこだわつていると、日本農業はますます零細化するだけで、發展の見込がない。また農耕地内の牧草生産だけでは、どうしても草の生産費が高くなつて、世界の草作生産費とマッチすることができぬので、たとえ酪農を進めても、不安な經濟關係が、対外的に脱け切れぬ結果に陥つて、この不安から將來の發展も望み薄である。そこでどうしても、山野の自然草地改良をすすめなければならぬのであるが、改良用草種の試験研究調査と種子生産について、今から施策を強力に進めなければならぬ。

アメリカやカナダでは一九三〇年ごろから政府が広汎な計画の下に多額の國費を投じて幾千種かの草や灌木について試作、試験を推進して採用価値のあるものを選抜し、種子生産と草地増成をマッチせしめて各種のむだをはぶきながら計画的な立地条件に適應した草地増成が行われて今日に至つてゐる。

また種子検査と保証制度が適當な研究機関乃至は保証業務代行者によつて行われているが、わが国においてもソルマメ、クサフジ、メドハギ、ヤハズソウ、クズ、フタバハギ、その他日本山野草のうち優良なものを國家が育成試作するとか、これら民間の研究種子増殖に助成方法を講ずるとか、種子の需要に対応する生農確保の方策を講じ權威ある種子検査と保証制度を確立するなど、劃期的な計画と施策を速かに進められることを望んでやまない。(田垣住雄)